

オーロラにはその形状・色・出現のしかたによって、A～Fの6種類のタイプに分類されています。

**タイプA**：上部が赤い緑色のオーロラ。上部の赤色は暗いことが多く、肉眼ではなかなか見えない。

**タイプB**：下端が桃色になる、緑色のオーロラ。太陽嵐が地球に届き、「ブレイクアップ」（オーロラ爆発）が発生した時によく見られる。

**タイプC**：最もよく見られる、ほぼ緑色一色のオーロラ。

**タイプD**：巨大フレアによる大規模な太陽嵐が発生した場合に、中緯度地方で見られる、赤いオーロラ。オーロラの上部だけが、地平線上に現れて見えている状態。「低緯度オーロラ」とも呼ばれる。

**タイプE**：タイプBと同じだが、非常に活動的で激しく揺れるように見えるオーロラ。

**タイプF**；上部が太陽光に照らされたときに見られる、紫色のオーロラ。春や秋によく見られる。月明によって青っぽく見えるオーロラもある。

私はすべてのタイプのオーロラを、実際に観望または撮影をしたことがあります。しかし、特に肉眼で観望が難しいのが、「タイプA」とその上部の赤い部分が低緯度でも見られる「タイプD」です。タイプAの上部の赤い部分は、肉眼ではよく見えないことが多いです。ヒトの眼の感度が、赤よりも緑が強いことも原因です。しかし、写真にここまで強い赤が写る時は、肉眼でも間違いなく見えます。この日、スウェーデン北部に住んでいる人々の多くは、この赤いオーロラを目撃したにちがいません。写真右端の輝星は「火星」、その左上の五角形は「ぎょしゃ座」、その五角形の中で一番上の明るい星が「スピカ」です。左端には「北斗七星」の一部も写っています。

(2024年10月下旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測)

